

第III部

非対話型利用：プログラムファイル

第6章 スクリプトの利用

MATLABの多くの操作は対話型で行うことができます。しかし計算が複雑で多くの手順を要するとき、あるいは同じような計算をデータを変えながら何度も行うとき、それでは手間がかかり過ぎて不便です。そのようなときのためには、プログラム用のファイルあるいはデータのためのファイルを利用するのが便利です。

6.1 スクリプトファイル

スクリプト (script) は、単純な形のプログラム ファイルです。一連のコマンドを繰り返し行う計算を実行するときに便利です。そのプログラムを書くときに使用するのがスクリプト言語です。

通常は、計算プログラム (ソースコード) はコンパイラにより機械語に翻訳しなくてはなりません。これをコンパイル (compile) といいます。スクリプトではこのようなコンパイルの手続きを経ないですぐに計算が実行できます。MATLABもこのような言語ですので、コンパイルの手続きを要しません。

新しいスクリプトは、次の方法で作成できます。

1. [ホーム] タブにある [新規スクリプト] ボタンをクリックします。すでにスクリプトがある場合には、そのスクリプトファイルをダブルクリックします。
2. エディター (ウィンドウ) にスクリプトファイルの内容が表示されます。ここにプログラムを書き込みます。
3. スクリプトファイルが出来上がったら、[保存] タブをクリックしてこれを保存します。

4. [ホーム] タブの [実行] ボタンをクリックすると、スクリプトは実行され、コマンドウィンドウに実行結果が出ます。
5. スクリプトファイルは名前を付けて保存すると、...m という拡張子が付きます。名前を付けずに保存すると、Untitled.m という名前になります。